

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和2年度高岡南高校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動と進路支援
重点課題	学力伸長は日々の授業にあることを学校全体で共有し、生徒の実態に即した学習活動となるよう努める。幅広い学力層に対応した評価方法を工夫し、応用力の育成と基礎事項の定着をはかり、面接指導も併せて生徒の主体的な学びと自己実現を支援する。
現 状	自己の適性・能力をしっかり認識できず、最終的には合格を第一として進路を考えがちである。与えられた課題にはまじめに取り組めるが、学習活動自体が目的となっていることに無自覚な生徒が多い。
達成目標	(1) 個々の学習状況を踏まえた進路意識高揚のための面接指導を、各学年6回以上 (2) アンケート調査による学習活動への満足度80%以上
方 策	(1) 学期初めの面接週間に加え、生徒個々の現状に応じて随時面接指導にあたり、平日の家庭学習を、1年生2時間、2年生3時間、3年生の6月以降4時間を確保できるよう支援する。 (2) 授業の予習・復習がおろそかにならないよう、学年と教科が連携を図り、自学課題の分量とレベルに配慮し、習熟度に応じた個別的な取り組みができるよう配慮する。 (3) 主体的な取り組みを促す評価方法を探究する。作問のあり方について、教科内で検討会を持ち、また結果を踏まえて総括を行う。 (4) 2学期末にアンケートを行い、達成度を検証する。
達成度	(1) 個々の学習状況を踏まえた進路意識高揚のための面接指導を、各学年6回以上・1学期のオンラインでの面談を含めると、 <u>達成率100%</u> (2) アンケート調査による学習活動への満足度80%以上 ・授業の満足度に関する項目について、「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」と答えた割合が、概ね85%
具体的な取り組み状況	(1) 学期初めの面接週間に加え、生徒個々の現状に応じて随時面接指導にあたり、個々の生徒の学習活動全体を把握できるように支援した。「進路についての指導・面談がよく行われている」「先生は生徒の悩みに対し、親身にに応じてくれている」という質問に対して、どの学年も90%近くの生徒が「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」と回答しており、面接面談を通じて、生徒と教師間で良好な関係が築けていることが十分にうかがえる。 (2) 2学期末に生徒・保護者双方に無記名のアンケート調査を実施した。「授業の進む速さは適切である」「先生の説明はわかりやすい」「授業で教わる内容はよく理解できる」「授業を楽しく受けている」「授業は量的にも質的にも満足できる」という質問に対して、「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」と答えた生徒が、どの学年も概ね80%を超えており、生徒の授業に対する満足度は非常に高い。 (3) 授業が学習活動の中心となるよう、生徒の学習活動全般への配慮、取組内容の目的を明確にすることによって、自主的な姿勢を喚起する手立てはないか、模索を続けた。
評価	A
学校関係者の意見	・「面接指導」で多忙な先生方が生徒一人ひとりに時間をかけ、個々の相談や進路支援を行うことにより信頼関係が構築されていく大切な取組みであり、今後も継続して欲しい。 ・1番でなく2番でも良いという気持ちは社会に出ても困る。自由闊達な校風を基盤に、高い目標を目指していくよう指導をお願いします。
次年度に向けての課題	授業に対しての満足度が非常に高く、それに比例して「学校に通うのが楽しい」と答えた率も高かった。学習活動全体を見通して正しく目的意識を持たせることができれば、さらに主体的な学習に取り組める環境を作り出せると思われる。次年度の課題としたい。

() 評価基準 A : 達成した B : ほぼ達成した C : 現状維持 D : 現状よりわるくなった

重点項目	学校生活	
重点課題	(1) 高い規範意識と他を思いやる「高南ブランド」を創造し集団力を高める。 (2) 生活のリズムを整える食習慣の定着	
現 状	(1) 挨拶の励行、時間厳守、身だしなみの価値を心から意識して実践できる生徒は、まだ少ない。 (2) 長期の休校によって、乱れがちになった生活習慣、食習慣に改善するところがある。	
達成目標	(1) ①生徒意識調査による挨拶、時間、身だしなみに関わる意識率 85% ②社会的なルール・マナーの意識向上 80% (2) 生活のリズムを整える3食の食習慣が身につけている生徒の割合 90%	
方 策	(1) ・外部講師から着こなしやマナー、現代社会問題について指導していく機会を設け、生徒自身に生活について考えさせる。 ・部会の定例化、学年との連携を密にすることで学校生活の問題点や情報を共有しながら、生徒が主体的な学校生活を送れるように支援する。 ・「社会的なルール・マナー」についてのアンケートを実施し共通理解度を高める。 (2) ・朝食を始めとした食習慣の実態を把握し、食事の重要性を理解することで自身の食習慣を見直してみる。	
達成度	(1) ①生徒意識調査による挨拶、時間、身だしなみに関わる意識率 85% ②社会的なルール・マナーの意識向上 80% (2) 3食の食習慣が身につけている生徒の割合 94%	
具体的な取り組み状況	(1) ・外部講師を招聘し「マナーセンスアップ教室」実施（マナーについての意義、社会人としての在り方について学ぶ）「消費者生活講座」実施（ネット上の個人情報流失、契約について、消費者トラブルについて学ぶ） ・「社会的なルール・マナー」についてのアンケートを実施し共通理解度を高める。 ・生徒校紀委員を中心に「秋のさわやか運動」実施。事前にポスター、スローガンを作り校内に掲示し行った。 (2) ・新入生オリエンテーション及びホームルームの時間を使って、1年生には朝食の意義や重要性、栄養の基礎知識について学んでいる。 ・全学年を対象に保健便り「HEALTH」を通じて食事と健康管理について啓蒙している。 ・12月には1日の食習慣の実態を調査し、自身の食習慣を見つめ直す。	
評価	A	
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナの影響で長期の休校や高校野球、高校総体、コンクールなどが中止になり、当たり前が奪われた1年だったが、何気ない日常のありがたさを実感でき、支えてくださる先生方の指導や家族、地域の方の言葉に感謝の心を表現できたと思う。 ・学校に訪問し生徒とすれ違う度に挨拶が有り気持ちが良い。 ・コロナ禍でOn-line授業での取り組みは学習指導面、生活指導面とも苦勞もたいへんだったと思いますが、今後とも家庭と連携を図り取り組んで欲しい。 	
次年度へ向けての課題	南高校生らしい品格の概念の共有。リーダー研修会（生徒会・部活動・学年）を開催し、生徒の意識の向上、主体的な取り組みが実践できるよう支援する。 3食の食習慣とあわせて、決まった時間帯に食事をとるよう、生活のリズムを大切にされた基本的な生活習慣の意識が高まるように、啓蒙していく。	

() 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

	令和2年度高岡南高校アクションプラン - 3 -	
重点項目	学校の活性化	
重点課題	(1) 自ら課題を設定し、学校生活の充実に努める生徒の育成 (2) ボランティア活動の推進 (3) 読書活動の推進	
現 状	(1) 学校行事・部活動が制約を受ける今年度の状況のなかでこそ、生徒一人ひとりが学校生活を充実させるための自らの課題を自覚し、その達成に努めることが求められている。 (2) 奉仕の精神に富む生徒が多く、ボランティア活動には意欲的である。 (3) 自主学習の場として利用している場合が多い。図書の出し数は横ばい傾向である。	
達成目標	(1) 学校生活の充実のために、委員会活動などを通じて自ら課題を設定し、その取り組みを通じて成長を実感できた生徒の割合が70%以上 (2) ボランティア活動に年間一回以上参加する生徒の割合が90%以上 (3) 一人につき年に2冊以上の貸出し数(のべ954冊以上)	
方 策	(1) 生徒一人ひとりが、今年度の状況を成長へのステップとしてとらえることを目指す。そのために、委員会活動をはじめ、様々な機会を通じて生徒個々の意識の向上と課題の設定を仕掛ける。 (2) ホーム・ルーム活動等を利用し、各学年・クラス単位で校舎内外・戸出地区における清掃作業等のボランティア活動の企画・実施を推奨する。 (3) 学年と連携し、朝読書の時間を充実させる。 図書館から朝読書用の書籍を選ばせる。(1年オリエンテーション時) 探究的活動で書籍を活用させる。 POPカードや図書日より、校内掲示板など、広報に力を入れる。	
達成度	(1) 部活動・学校行事(南高祭)・委員会活動のいずれかを通じて達成感・成長を実感できた生徒の割合は87% (2) ボランティア活動に年間一回以上参加した生徒数は延べ466名で達成率98% (3) 貸し出し冊数は1351冊(3/11現在)。年2冊以上の目標は達成	
これまでの具体的な取り組み状況	(1) 南高祭については、制約が多い中で、一人ひとりの生徒が実施内容・形態について知恵を出し合う機会を設けた。また、初めての試みとしてグラウンドを利用した企画を行った。 (2) 2学期のホームルーム活動にどのクラスもボランティア活動を取り入れ、戸出地区の清掃作業に取り組む活動も見られた。 昨年実施していた七夕祭り駐車場の除草作業は実施できなかったが、来年度はそれに代わる活動を模索していきたい。 (3) 芸術鑑賞・ビブリオバトルは中止となったが、次年度は昨年までと同様、実施していきたい。 朝読書は1年生で実施し、定着しているが、さらに効果的な方法を考えていきたい。 校内掲示板などを活用し、積極的に広報活動に努めた。	
評価	A	
学校関係者の意見	・コロナ禍で変則的な学校生活が強いられたが、3つの目標がいずれもクリアされたことは良かった。系統的に再編し伸ばしたい力を計画的に育成して欲しい。 ・コロナ禍でも全体的にもっと元気に楽しい学校生活が過ごせるようお願いする。 ・読書活動の推進のため学校図書館とともに戸出図書館も積極的に活用して欲しい。	
次年度へ向けての課題	(1) 今年度は、コロナ禍で生徒にとって変則的な学校生活を余儀なくされる場面が多い一年間であったが、次年度は、どのような状況であっても、それを生徒の成長の機会であるとしてとらえられるように働きかけをしていきたい。 (2) 読書や芸術に触れる機会を増やししながら、教養の涵養に努めたい。	

() 評価基準 A : 達成した B : ほぼ達成した C : 現状維持 D : 現状より悪くなった。

	<p>令和2年度高岡南高校アクションプラン - 4 -</p>
<p>重点項目</p>	<p>「キャリアデザイン・プロジェクトS」の充実と授業力の向上</p>
<p>重点課題</p>	<p>(1) 「キャリアデザイン・プロジェクトS」を発展させ、「学ぶことの意義」「学ぶことの価値」を見いださせる中で、自立する際に必要となる思考力・判断力や価値観を活動を通して身につけさせるとともに進路目標を明確にする。 (2) 新教育課程の実施に向けての授業改善を行う。</p>
<p>現 状</p>	<p>(1) キャリアデザイン・プロジェクトSで、自らの生き方在り方を考え、将来への展望を抱かせ高き目標を持たせるような授業を展開している。また大学と連携し探究的な活動を行っているが、探究の仕方を学ぶに留まり、探究力・自己発信力ともに伸長の可能性がある。以上から、このプロジェクトを系統的に再編し伸ばしたい力を計画的に育成する必要がある。 (2) 互見授業などを活用し、各教科・学年の授業を参観する機会が増えてきたが、新教育課程の実施に向け互いに学び合う場として、さらに工夫する余地がある。</p>
<p>達成目標</p>	<p>(1) キャリアデザインプロジェクトSを通じて、 (1学年) 進路目標が明確になった生徒の割合80%以上。 (2学年) 探究力・自己発信力が育成された生徒の割合70%以上。 (2) 他教科の授業(新教育課程に向けた)を含めた互見授業参観2回以上実施、かつ教科別授業研究会を1回以上開催し、3年間を見通した指導法を築き、指導目標を共有する。</p>
<p>方 策</p>	<p>(1) 主に総合的な探究の時間を活用して実施する。 ① 1学年では大学の教授・専門家・職業人との関わりから、学ぶこと、働くこと、生きることなど自分の生き方や在り方について考える。また、探究的な手法について学ばせることを目標とし、具体的には地域課題をテーマにして課題の設定、情報活用能力および表現する力などを学ぶ。 ② 2学年では高大連携により、探究的な活動を行う。仲間と協働しながら、課題を発見し解決していくための資質・能力を育成する。活動を簡潔にまとめ、適切な方法で表現する。主体的な学びにつなげる。 ③ プロジェクトの評価と改善を行い、系統的に再編する取り組みを行い、伸ばしたい力について学校全体で共有をはかる。 (2) ① 互見授業期間に各教科1名以上の指定公開授業を行う。 ② 他教科の授業を含めて、授業を2回以上参観する。 ③ 互見授業終了後、教科別授業研究会を開催し、3年間を見通した指導法を築き指導目標を共有するなどカリキュラム・マネジメントを行う。 ④ 報告書を書くことで自分自身の学びを確認する。 ⑤ ICT機器を用いた授業を推進する。</p>
<p>達成度</p>	<p>(1) キャリアデザインプロジェクトSを通じて、 (1学年) 進路目標が明確になった生徒の割合 95% (2学年) 探究力・自己発信力が育成された生徒の割合 94% (2) 互研授業参観回数 3.3回/人</p>
<p>これまでの具体的な取り組み状況</p>	<p>(1) 「キャリアデザイン・プロジェクトS特別記念講演」として全学年向けに2015年にノーベル物理学賞を受賞された東京大学宇宙線研究所の梶田隆章所長を講師としてお迎えし、「神岡での研究をふりかかって」と題して、生徒に夢をもって努力することの大切さをご講演いただき、生徒の進路意識の向上につながった。 ・ 1学年: 「キャリアデザイン・ゼミナール」講演会を3回実施し、実社会の姿を知ることによって働くことの意味を理解させ、あるいは学問をすることの意味に気づかせ、将来への大きな志をもって意欲的に学び活動するように導いた。また、講師の選定にあたってはPTAキャリア教育推進委員会を設置し協力を得た。12月に「大学連携講座I」を開催し県立大学から講師を招聘し学びに向かう力を育成した。今後「探究的な活動I」にて地域での課題を見いだすアイデア提案型の探究的な活動を実施し、問題解決的な活動を繰り返しながら探究の手法を学ぶ予定である。 ・ 2学年: 「探究的な活動」(大学連携講座II)は活動期間を多く取り充実させた。富山大学と連携し講師による指導・助言を2回実施して、探究の手法の獲得のみならず学問への誘い、更に視野を広げて進路を考えさせるよう工夫した。 (2) 「学問探究」をはじめ他教科の授業の参観が多く見られた。また、ICT機器を用いた授業・デジタル教科書を用いた授業が積極的に行われ、特に5月からのリモート授業には殆どの教員が携わった。</p>

評価	A	
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ノーベル賞受賞者の東大宇宙線研究所梶田隆章所長の講演で「努力することの大切さ」や「チームワークの大切さ」を通して、生徒は志を持つことの大切さ感じたと思う。今後も素晴らしい取り組みを継続して、判断力、表現力、コミュニケーション能力など生徒のキャリアアップを計って欲しい。 ・探究する精神は即戦力として大きな力を発揮する。発表を経験し、人にもものを伝える力を養って欲しい。 ・互見授業で先生方は連携協力されているが、更に工夫をしてほしい。 	
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年では、キャリア講演会・探究的な学習など様々な機会を通して、興味・関心を以て積極的に協働して活動する姿が見られるようになり、進路意識も高まった。次年度に大学と連携し発展的な探究を実施する予定としているが、「ワクワク」する好奇心を持って、知る（探究力）・表現する（自己発信力）のサイクルを生み出すことを心がけ、更には科目横断的な学びを育みたいと考えている。 	

() 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった。

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和2年度高岡南高校アクションプラン - 5 -		
重点項目	ICT推進事業	
重点課題	(1) 教育クラウド利用した授業、生徒との面談、会議等の利活用推進 (2) 情報セキュリティの改善	
現 状	(1) 教育クラウドの導入期にあたり、ソフトウェア、ハードウェア共に環境整備 が必要である。また、教員の研修不足もあり、まだまだ利活用研究の段階まで に至っていない。 (2) 個人情報等の管理すべき情報の把握、整理ロッカー等の整備、成績処理等の ソフトウェア開発などが不十分である。	
達成目標	教育クラウドを利用した教育活動の 推進 工程の達成 10 工程以上	情報セキュリティに関する改善工程の達成 10 工程以上
方 策	<p>推進工程</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ドメイン取得等初期設定 ②ガイドラインに沿った教育クラウド整備 ③専用回線の整備 ④管理者の育成 ⑤Office365 教育クラウド利用に関する研修 ⑥Teams に関する研修 ⑦Forms に関する研修 ⑧追加アプリに関する研究 ⑨SKYMENU 利用に関する研修 ⑩教育クラウドを利用した授業改善・工夫に関する研修 ⑪生徒の意識調査の実施 ⑫教員の意識調査の実施 ⑬教育クラウド導入・整備視察の受け入れ ⑭教育クラウド利用に関するまとめ作成 ⑮次年度計画 	<p>改善工程</p> <ul style="list-style-type: none"> ①個人情報等の管理すべき情報のリスト作成 ②エリア別管理の設定 ③検査・改善態勢の構築 ④整理ロッカー等の整備 ⑤袖机・ケース等の整備 ⑥職員室のゾーン設定 ⑦成績処理ソフトウェア開発 ⑧SKYMENU 設定変更による改善と利便性の向上 ⑨ファイルサーバ (教員エリア) の仕様改善 ⑩ファイルサーバ (生徒エリア) の仕様改善 ⑪バックアップの設定管理 ⑫情報セキュリティ研修の実施 ⑬セキュリティ体制の視察受け入れ ⑭情報セキュリティに関するまとめ作成 ⑮次年度計画
達成度	達成できた工程 ①②③④⑤⑥⑦⑪⑬⑮	達成できた工程 ②③④⑤⑥⑦⑨⑩⑪⑫⑮
具体的な取組状況	<p>①②③④ 教育クラウドを利用したオンライン授業の実施に際して、工程の前半を達成し、4月から5月末にかけて遠隔授業をライブで実施できた。</p> <p>⑤⑥⑦ 授業に際して、Forms、Power point などの研修を行うことができた。</p> <p>⑪ 新聞部が活動の中で生徒と教員の意識調査を実施し史上で公開した。</p> <p>⑬ 教育クラウド導入・整備視察として、高岡第一高校、富山県総合衛生学院、県民カレッジほか多くの団体から見学を受けた。</p> <p>⑮ 次年度は、教員用タブレット、生徒用タブレットの導入・運用が始まるので、教員研修会などを通じて、教員間で活用について理解するとともに、研究修養を重ねることの必要性の認識を促した。</p>	<p>②③⑨⑩⑪ コロナ禍の休校期間において、まずは、ネットワーク等の現状を調査し、生徒エリア、教員エリアの状況を把握した。</p> <p>④⑤⑥ 職員室のセキュリティ改善、工程の前半を達成し、4月から5月末にかけて遠隔授業をライブで実施できた。</p> <p>⑦ 旧システムと新システムを併用し、チェックしながら確度を高めている。</p> <p>⑩⑪ ファイルサーバ等の管理体制については、情報政策課と協議し、県下他校と同様の仕様となるよう調整した。</p> <p>⑫ 情報セキュリティに関する研修会、及び、ICT 活用に関する基本事項の研修会を実施した。</p>

評価	B	
学校評議員の意見	<p>・教員、生徒一人1台のタブレット導入・運用が始まるが、研修会や情報共有、デジタル教科書の対応が大切になってくる。ICT専門の教員がいる強みを生かして、活用効果が最大限に発揮されるよう、専門的な先生の育成や生徒に格差が出ないようにお願いしたい。</p>	
次年度に向けての課題	<p>次年度は、教員用タブレット、生徒用タブレットの導入・運用が始まるので、教員研修会などを通じて、教員間で活用について理解するとともに、研究修養を重ねることが必要である。また、情報セキュリティに関しては、物品の整理を通して、紙ベースのデータについて、管理・破棄の徹底を図っていくことが必要である。</p>	

() 評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状維持 D: 現状より悪くなった。